

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	東京女子医科大学				
取 組 名 称	女性医療リーダー育成をめざす全学横断教育				
取組学部等	全学				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A22144	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	キャリア				
キーワード	リーダーシップ, 協働, キャリア, アウトカム評価, チームベーストレーニング				

<選定理由>

本取組は、女性医療リーダー育成を目指して全学的取り組みを行おうとするものである。特に、女性医療従事者のライフサイクルを考慮に入れて、いかに教育を行うかを考えたプログラムであることに大きな意義を有するものである。また、大学創立の理念を具現化するための組織的整備が行われている点や、現実的な課題にどのように対応するかが明確であり、医学と看護学とを協働させようとする実践的な試みは意欲的であり評価できる。

ただし、医学部と看護学部との「横断教育」の実を挙げるためには、両学部間の一層の連携協力が必要である。取組実施にあたっては、このことに対応しつつ、着実に成果を上げることを期待する。

取組の概要【1ページ以内】

東京女子医科大学は、独立して社会に貢献することのできる女性医師を育成することを目的として1900年に東京女子医学校が創立されたことがその起源である。1930年には付属産婆看護婦養成所が開設され、女性医師と看護師教育を行ってきた。本取組は、女性医療人が医療の主導者としてリーダーシップを発揮できる人間形成と専門職意識形成をめざす。女性がリーダーシップを醸成し維持するには、キャリアに対する展望を持ち、女性のライフサイクルの中でキャリアを継続し研鑽を積まなくてはならない。本取組ではライフサイクル・キャリアへの展望を持って医療の主導者となるために、到達像を定め、それを達成する教育を医・看護学部が共同で行う。さらに到達像達成の継続的教育評価に基づく教育改良を継続する機構を作る。

本学は100余年の歴史の中で有意の女性医療者を社会に輩出してきた。これらの医療者は、男性と比べて制限のあるライフサイクルの中で自身のキャリアをライフサイクルの変化する状況に合わせて維持し、医療・社会の主導者として社会貢献をしてきている。これらの社会的リーダーが卒業生に多くいることは学生の良いロールモデルとなるが、一方で社会経験・ライフサイクル・キャリアビジョンを十分持っていない学生にとっては、自分の将来像と結びつけることは難しい。女性医師が増え、女性の社会進出が盛んになった現代では、女性支援の社会制度充実に向かっているが、支援を受ける女性自身のキャリア意欲と専門職意識が必要である。医師・看護師は医療実践の中でしばしば主導的役割を果たすが女性医療者のリーダーシップが求められる環境も、男性中心の社会から、混合、あるいは女性の多い環境であることも多い。様々な背景を持つ専門職が協働する医療チームの中でリーダーシップをとるためには、自己のキャリア形成を継続し専門職能を高めて協働を主導できることが求められる。継続的なキャリア教育を行い、協働の中でキャリアを生かしリーダーとなる意識を高めることが本取組である。

取組はアウトカムと呼ぶ最終到達目標に基づいて低学年から高学年に連続性・継続性を持った教育方法の組み合わせで、大きく2つに分かれる。ひとつは協働教育で医学部・看護学部合同で行う。入学後から医学部5年、看護学部4年までに両学部学生が合同で問題発見解決型テュートリアル（医学部が日本で最初に導入した少人数能動学習方法）、共同医療技能実習、チームベーストレーニング（大教室の中で少人数グループ毎に討論と全体討論を繰り返し、問題解決を導く新たな教育方法）、他大学学生を含めたワークショップなどを通して、協働、協働の中でのリーダーシップ、リーダーとしての決断などを、実践あるいは実践の文脈の中で学習し省察する。もうひとつはキャリア教育で、医学部・看護学部別々に行われる。それぞれ近未来（身近な先輩）と理想（先人と社会リーダー）について学習者参加型教育の中でキャリアビジョンを徐々に持ち、卒業時までにはキャリアプランを持つことができるような累進性のある教育方法を導入する。低学年では先輩医療者とのキャリア設計についてのワークショップ、社会・医療リーダーとなった先人のキャリアパスを検証するテュートリアル学習、保育所実習のなかで子育て中の女性医療者とのキャリアビジョン研修、高学年では地域医療リーダーとなっている先輩医師での臨床実習、保健・国際・政策へのキャリアプランを持つ卒業生による授業・ワークショップなどの体験的・能動的・自己開発型教育によりキャリアビジョン形成する。この教育効果は学内横断的評価組織でアウトカム評価を行い、共同・学部別教育の教育改善を行う。

本学創立者は24歳で結婚し子を生し、資格取得後67年間医師としてのキャリアを継続した。これは現代の女性医療者にも求められるキャリアである。創立者はさらに、29歳で医学校を創立し戦後大学として認定されるまでに発展させ、婦人運動を含め教育と社会のリーダーとなった。その後様々な領域で本学卒業生が、創立者の精神を引き継いでいるが、22世紀の医療の礎となる女性医療人となる学生にそのビジョンと能力を蘊奥するのが本取組である。